

# 小学校第6学年社会科学学習指導案

日時 平成24年 7月 13日 (金)

指導者 6年担任 教諭 恒松 龍治

1 単元名 「戦国の世は、どう統一されたの」 (日本文教出版6年上 p60～p75)

## 2 単元について

### (1) ねらいについて

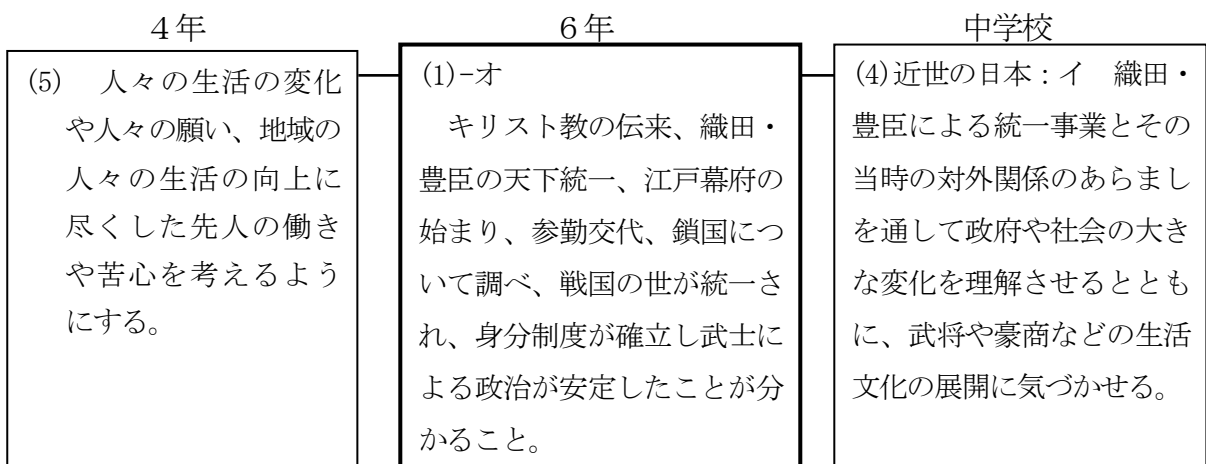
本単元は、学習指導要領の内容(1)ーオ「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。」を受けて設定されている。

ここでは、信長・秀吉によって戦乱の世の中が統一され、家康が江戸幕府を開いたことにより、長く安定した武士の基礎が作られたことがわかることをねらいとしている。

この信長・秀吉・家康の三人は、性格や生き方は違うが、天下統一という願いをもっていたという共通性がある。また、それぞれ個性的な人物で多くのエピソードや業績があるので、興味・関心を持ちやすく、三人を比較しながら天下統一の役割について考えることができる。

また、身近な地域の教材として、人吉球磨地域に残る人吉城や朝鮮出兵時の記念碑等を取り上げることができる。特に、人吉城は地域のお祭りなど、様々な形で直接的に体験しているので、関心を持ちやすく、人吉城と各大名の城とを比較したり、関連づけたりしながら、歴史的な事象を多面的・多角的にとらえ、より広い視野から考えることができる。さらには、戦国の世にあって700年も人吉藩を守りぬいた相良氏の国や民を思う気持ちを考えることができる。

### (2) 系統について



### (3) 児童の実態について

※ 省略

#### (4) 指導にあたって

- 単元導入や一単位時間の導入場面では、時代の様子が分かる「屏風絵」や群雄割拠の時代といわれる戦国の世が捉えられる資料を電子黒板等で提示することで、学習への意欲を持たせたい。また、拡大提示による説明や気づきへの書き込みにより、課題への焦点化を図ることで、問題解決的な学習による児童の主体的な学びが生まれるようにする。
- 天下統一をより身近なものとしてとらえるためには、身近な地域の人々がその時代をどのように生きていったのか、その生きざまを自分のものとしてとらえるようにする。そこで、単元終末には700年もの間、人吉藩を守り続けた相良氏を取り上げ、自作の教材を作成し、視覚的にとらえることができるように提示して、その政策や国づくりの思いに迫ることができるようにしたい。
- 「自分が思う天下統一の立役者」という単元を貫く課題を設定し、3人の武将のそれぞれの政策や人柄、3人の関係、戦国の世の様子などを調べる学習の段階において、「考えの共有」のための根拠を明らかにする資料を準備できるようにする。
- 全体で練り上げる場面では、電子黒板に考えを書いたノートやシート、各種の資料を映し出しながら自分の考えの主張点に書き込みを加えながら伝え合うことで、「考えを共有」し、学びを広げ・深めることができるようにする。
- 「みつめる」「さぐる」「ふかめる」「広げる」といった問題解決的な学習の展開を図っていくとともに、「自分が思う天下統一の立役者」という単元を貫く学習課題を設定することで伝え合い活動による言語活動の充実を図ることができるようにする。また、自作の地域教材を提示することで、戦国時代を生き抜いた諸国の大名の思いに迫り、天下統一の大きな流れを比較対照させながら学習を進めていきたい。
- 自己評価を行い、学習を振り返る時間を設けることにより、児童一人一人の社会的な思考力・判断力・表現力の深まりといった学習状況をつかむことができるようにする。また、その状況により、支援が必要な児童に対しては個別に対応し適切な支援を行うようにする。どのようなことに力点をおいて指導するか、授業形態をどのようにするか述べる。

#### ICT活用のポイント

##### ①教師の活用ポイント

- ・電子黒板を活用して歴史上の人物や地図帳を拡大提示することで、社会科学習の基礎的・基本的事項を本時の学習に関連させながらスキルの身に付けさせる。
- ・導入時の学習のふり返りでは、地図資料を拡大提示し説明を加えることで、本時の課題に対して興味をもたせるとともに焦点化を図る。

##### ②児童の活用ポイント

- ・展開における「自分が思う天下統一の立役者」を話し合う場面では、自分の考えをより分かりやすく説得力あるものにするために、自分の考えの根拠となる資料をタブレット PC や電子黒板で共有しながら、書き込みを加えて話し合うことができるようにする。

### 3 単元の目標

長篠の戦いや戦国の世の統一に関心を持ち、天下統一をすすめた信長、天下統一をなしとげた秀吉、全国支配を固めた家康について調べ、戦国の世が統一されたことが分かり、国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

### 4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
信長・秀吉・家康の天下統一のための業績に関心を持ち、年表などの資料を活用して意欲的に調べ、考えながら追求している。	天下統一にかかわる人物の働きや当時の代表的な文化遺産について問題意識を持ち、学習の見通しをもって、自ら調べ、自ら考えながら解決している。	天下統一がすすめられた頃にまつわる地域教材の資料や年表などを活用しながら、天下統一にかかわる人物について調べ、分かったことを学習シートにまとめている。	戦国の世を統一するために、信長・秀吉・家康がすすめた業績について理解している。

### 5 指導計画及び評価基準（6時間取扱い）

時	学習活動	指導上の留意事項	関	思	技	知	評価基準・評価方法
1	「長篠の戦い」の絵をもとに、戦国時代の様子について話し合い、学習課題を作成する。	長篠の戦いの屏風絵から3人の武将の関係に気づかせるとともに、新たな疑問から学習課題を持たせる。	◎	○			信長・秀吉・家康の立場の違いを理解し、三人の武将の天下統一に関心を持ち、学習課題を考えることができる。
2	織田信長はどのように天下統一をすすめたのか調べ、まとめる。	信長の戦いが分かる資料を掲示し、勢力をのぼしていく様子や信長の政策、業績について理解できるように支援する。			○	◎	信長は、戦術やキリスト教の保護など、新しい考え方によって戦国大名を滅ぼし、勢力をのぼしていったことが分かる。
3	秀吉はどのようにして天下統一をなしとげたのか調べ、まとめる。	秀吉が行った検地と刀狩りの内容を教科書や資料集で調べ、その目的について考えさせる。			○	◎	秀吉は検地や刀狩りなどの政策によって全国を統一し、武士の支配する社会の仕組みを整えたことが分かる。

4	家康は全国支配をどのように固めたのかを調べ、まとめる。	関ヶ原の戦いや江戸幕府を開いたこと、武家諸法度を出したことなどを調べ、家康が全国支配を固めていったことが分かるようにする。			○ ◎	関ヶ原の戦いに勝利した家康が全国の支配を固め、江戸幕府の基礎を築いたことが分かる。
5	信長・秀吉・家康の業績をふり返り、それぞれの武将のすぐれたところを話し合いながら、天下統一への道について、自分の考えをまとめる。	3人の武将の天下統一のすすめ方や業績から、3人の個性をとらえるようにする。また、3人の働きにより、天下統一が成し遂げられたことについて理解できるようにする。		◎ ○		三人の武将の天下統一の働きをもとに、それぞれの長所をとらえ、天下を統一した立役者について自分なりの考えを持つことができる。
6	戦国の世にあって700年も続いた人吉藩の藩主である相良氏と、3人の武将とのかかわりについて考える。	信長・秀吉・家康の武将に仕えながらも、自分の国や民を守りたいと願う人吉藩の大名である相良氏の思いを考えるようにする。	○ ◎			人吉藩を700年も守りぬいた相良氏に関心を持ち、戦国時代を生き抜いていった相良氏の思いを考えることができる。

## 6 本時の展開

(1) 目標 信長・秀吉・家康の業績をふり返り、それぞれの武将のすぐれたところを出し合いながら、天下を統一した立役者について自分なりに考えることができる。

### (2) 展開

過程	学習活動、主な発問 (T) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点・評価	備考 ICT活用
導入 7分	1 3人の武将の業績をふり返る。 (T)これまで調べてきた3人の武将の天下統一についてふり返ってみましょう。 (C)各武将の性格がよく表れていました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習をふり返り、3人の武将のそれぞれの役割や性格を確認させたい。</li> <li>導入時に一度判断した自分の意見や学習したことからめあてに迫らせたい。</li> </ul>	電子黒板
	めあて 自分が思う天下統一の立役者は誰か？ みんなで話し合おう！		

<p>展開 35分</p>	<p>2 3人の武将のそれぞれのすぐれたところをまとめる。 (T)それぞれの活躍ベスト3をあげて比べてみて、天下を統一した立役者は誰かを考えてみましょう。</p> <p>3 自分たちが思う天下統一の立役者について考えを話し合う。 (1)グループで話し合う。 (2)全体（一斉）で話し合う。</p> <p><b>【言語活動】話し合い活動</b> 自分の考えを広げたり深めたりするために、話し合い活動を行う。</p> <p>(C) 3人の武将はそれぞれに個性を出しながら、政策を受け継いで天下統一をはたしたので立役者は3人。 (C)信長は、新しいやり方を取り入れたので立役者にふさわしい。 (C)秀吉は、社会の仕組みを整える努力をしたので立役者だ。 (C)家康は、辛い時をじっくり乗り越えて、力を蓄えながらチャンスを待つことができたので立役者だ。</p> <p>4 自分の考えをまとめ、天下統一の立役者に手紙を書く。</p>	<p><b>能動型学習（ポイント）</b> 信長・秀吉・家康の3人の武将の業績について、それぞれベスト3を挙げさせ、比較することで、誰が天下統一のために活躍したかを判断させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループから全体へと学習形態を広げることで、自分の考えに広がりや深まりが出てくるようにする。</li> </ul> <p><b>◆思考・判断・表現（シート）</b></p> <p><b>B基準</b> 3人の武将の天下統一の働きをもとに、それぞれの長所をとらえ、天下を統一した立役者は誰かについて自分なりの考えを持つことができている。</p> <p><b>A基準</b> B基準に加え、自分の考えの根拠となるいくつかの資料を関連させながら考えることができている。 (B基準に達していない児童への手立て) ・個別に言葉掛けを行い、業績を再度ふり返らせるとともに、その政策が及ぼした影響を具体的に考えさせる。</p> <p><b>徹底指導（ポイント）</b> 手紙を書く活動により、自分の考えを明確にして学習をまとめられるようにする。</p>	<p>タブレットPC 電子黒板 実物投影機 電子黒板</p>
<p>終末 3分</p>	<p>5 これからの自分の生き方を見つめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで学習してきた3人の武将の生き様に迫り、自分の生き方を見つめさせたい。</li> <li>統一された側の武将に迫るといふ、次時の学習への意欲づけを図る。</li> </ul>	